

「主体的・対話的で深い学び」を保障する授業の具現化

平成30年度 外国語科 のまとめ



- 研究大会実践の解説

6年「**What sport do you want to watch?**」

- 研究大会の成果・課題を踏まえた実践

5年「**I want to go to Italy.** 行ってみたい国を紹介しよう」

実践者 伊藤 光

平成 30 年度 附属函館小学校研究について

平成 30 年度 北海道教育大学附属函館小学校 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を保障する授業の具現化
～「学びの文脈」に基づいた各教科等の単元のデザイン～

* 課題設定の理由と研究の経緯 については、「研究のまとめ」を参照して下さい。

単元のデザイン

単元の目標を達成する（≒「資質・能力」の育成を目指す）ために…

- ① 単元の目標を分析し、目指す子供の姿に至るまでの**単元の構想**をする。
- ② ①を子供の**問題解決のストーリー**の視点で**整理**する。
- ③ 学びの文脈を生み出したり、つないだりする**支援**を**具体化**する。

1. 「単元のデザイン」とは

まず前提として、授業づくりを行う時に重視しなくてはいけないのが、主体的・対話的で深い学びを通して、単元の目標を確実に達成することです。そのための、「単元のデザイン」は、本校では3つのステップにより行われています。

最初は、単元の目標を分析し、目指す子供の姿に至るまでの単元の構想をします。学習指導要領の内容を確認したり、各教科書会社の教科書を比較したりすることなどを通して、どのような学びを展開すれば、単元の目標が達成できるのかを考えます。その時、単元の終了時における目指す子供の姿から逆算し、どのような過程を経てその姿になるかを構想することも重要です。このようにして、単元の構想をすることが、第1のステップです。

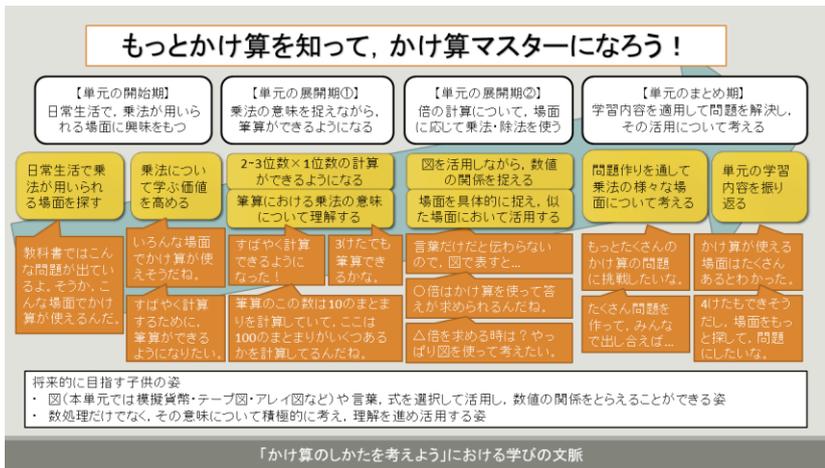
次は、その学習活動の流れを、子供の問題解決のストーリーの視点で、整理します。先述の通り、主体的・対話的で深い学びを通して、資質・能力を獲得・育成していくには、子供が学びたいと思える「問題解決のストーリー」が重要になります。子供の実態を捉え、単元における問題（課題）を解決することに、必要感や必然性を感じるような単元になるよう整理することが、第2のステップです。

最後に、「学びの文脈」を生み出したり、つないだりするための教師の支援や手立てを具体化します。「学びの文脈」を通して、子供が主体的・対話的で深い学びをしていくには、適切な教師の関わりが重要です。それは時に直接的な関わり（対話や発問など）であったり、間接的な関わり（場の設定や環境整備など）であったりします。また、各教科等の特質や単元のもつ特性、児童の実態などにより、その手立ては多様になり得ると考えています。その手立てについて考え、単元の中で適切な支援ができるよう具体化していくことが、第3のステップです。

2. 単元における資質・能力の育成を支える「学びの文脈」

- ① 教科等の枠組みを踏まえながら、社会の中で活用できる資質・能力（国語力・数学力など）
- ② 教科等を越えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力（言語能力・情報活用能力など）
- ③ 現代的な諸課題に対応できるようになるために必要な資質・能力（安全で安心な社会づくりのために必要な力など）

中央教育審議会答申（中教審 197 号）、p27



これまでの研究で、資質・能力の育成のために「学びの文脈」が重要であることはわかってきました。そして育成を目指す資質・能力については上の3つがあるとされています。

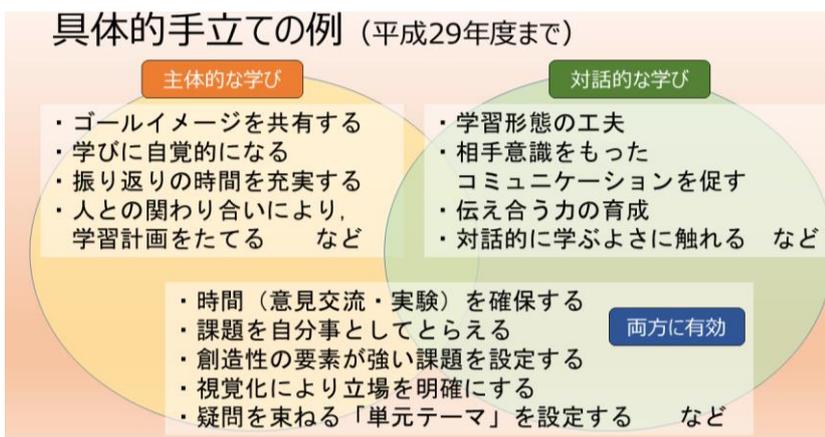
これまで本校では、「学びの文脈」は①の資質・能力の育成に資するものと考えてきました。

今年度は、本校において育成を目指す資質・能力の軸を①としながら、その単元で育成を目指す資質・能力

が②や③の資質・能力の育成にどのようにかわり、「学びの文脈」上でどのように表されるかを追究しています。

具体的には、単元の学習終了時や、その教科等を学び進めた時、あるいは将来的な（各教科等の目標に沿った）子供の姿として授業者がイメージし、それに向かう姿が見られようにすることに挑戦しています。そのために、指導案上で「学びの文脈」を図化することで、①の資質・能力の育成はもちろん、②や③の資質・能力とのつながりを捉えることができることを期待しています。

3. 「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立て



今回の研究では、これまでに行われてきた授業づくりにおける具体的な手立てを、各教科等の資質・能力の育成という視点からもう一度見直し、単元の学びをどのようにつないでいるのかを示すことに挑戦しています。これにより、授業にどんな学習活動を盛り込むことで「学びの文脈」を生み、資質・能力を育成することができるかを、より明確に見出すことができると考えました。

「学びの文脈」を”生み出す”ための手立ての多くは、単元や題材を選びません。また、教科等も限定されない（汎用性が高い）ことも多いです。例えば、「気づきを生む資料と出会う」ことや、気づきから「単元テーマ」を設定するなどの手立てです。その多くは教科横断的に活用できると言えます。

そして「学びの文脈」を”つなぐ”ための手立ては、各教科等の特質に応じて行われる（「見方・考え方」を鍛える）学びの場面で多く見られます。例えば、「教師との対話により目標に迫る」「既習との関連を明確にして統合的・発展的に学ぶ」などです。その多くは、より「深い学び」を実現する手立てとして、活用できると言えます。

外国語科 研究大会実践の解説

単元名 6年「What sport do you want to watch?」 We Can! 2 Unit 6

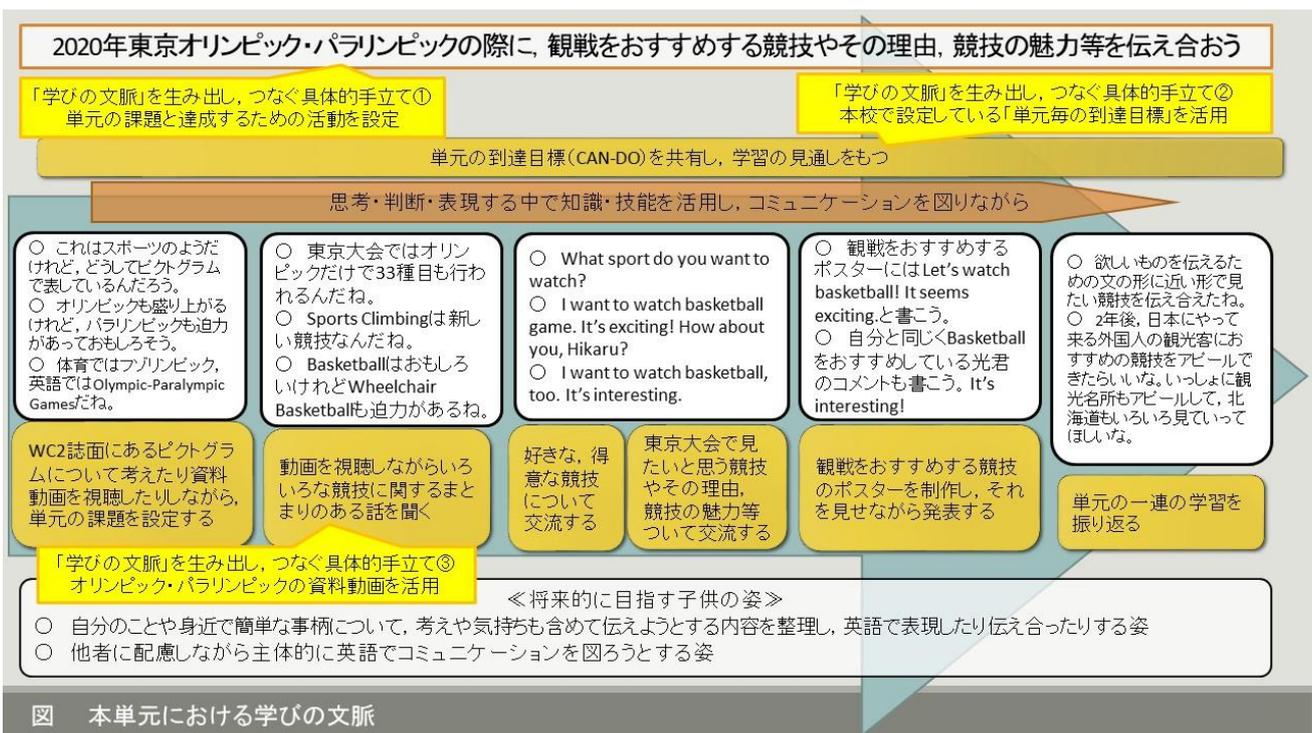
(1) 単元における、資質・能力の育成を支える「学びの文脈」

本単元では、子供が、

- ・ 国名やオリンピック・パラリンピックで行われる競技の名称、競技を見たい理由等を伝え合うための語句、表現を聞いたり話したり、読んだり、文の形に合わせて書き写したりする。
- ・ オリンピック・パラリンピックで行われる競技についての話を聞いて今と昔を比べたり、見たい競技やその競技の魅力等について交流したり、おすすめ競技のポスターを制作したりする。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックで見たい競技について、競技の魅力や見たい理由を添えるなど他者に配慮しながら主体的に伝え合おうとする。

ことができるよう、「学びの文脈」を次の通り構想しました。

ア WC2 誌面にあるピクトグラムについて考えたり資料動画を視聴したりする。	開始期
イ 単元の課題を設定する。	
ウ 動画を視聴しながらいろいろな競技に関するまとまりのある話を聞く。	展開期
エ 好きな、得意な競技について交流する。	
オ 東京大会で見たいと思う競技やその理由、競技の魅力等について交流する。	
カ 観戦をおすすめする競技のポスターを制作し、それを見せながら発表する。	まとめ期
キ 単元の一連の学習を振り返る。	



(2) 「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立て

学びの文脈を生み、つなげることができるよう、下記のような3つの手立てを行いました。

手立て① 「2020年東京オリンピック・パラリンピックの際に、観戦をおすすめする競技やその理由、競技の魅力等を伝えるポスターを制作し発表する」という課題とそれを解決するための活動を設定する。

ア 学習内容への関心をもつことができるよう、オリンピック・パラリンピックの各競技を表すピクトグラムを使ったスポーツ当てクイズを設定したり、ピクトグラムに関する資料を提示したり、2016年オリンピック・パラリンピックリオデジャネイロ大会の資料動画（開会式、大会ダイジェスト、各競技のハイライト場面など）を見て競技の迫力や魅力を味わう場を設けたりしました。スポーツの得意不得意や好みに関係なく、子供は各々の競技がもつおもしろさや迫力に魅了されていました。

イ 明確なコミュニケーションの目的や場面、状況として「2020年東京オリンピック・パラリンピックの際に、観戦をおすすめする競技やその理由、競技の魅力等を伝えるポスター<資料1参照>を制作し発表する」という本単元の課題（ゴール）を設定し、本單元における学習活動がすべてこれにつながるようにしました。子供は毎時間、各競技がもつおもしろさ、魅力的なところを探していました。

エ・オ・カ 好きなスポーツや、観戦したいと思う競技とその理由、各競技の魅力等について友達や教師と簡単な内容で交流し、自分の考えと比べる活動を設定しました。子供は、実際に自分の考え等を伝え合う中で、ポスターを制作する際に必要となる語句、表現等を活用していました。またポスター制作では、必要な語句、表現を文の形に合わせて選び、正しさを意識しながら書き写す子供の姿が見られました。

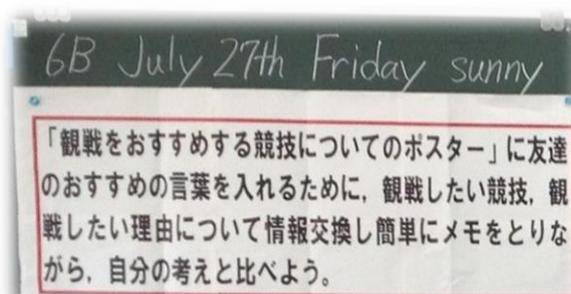


写真 研究大会本時の板書

手立て② 本校で設定している「単元毎の到達目標」（CAN-DO リスト）を活用する。

イ 単元の開始期において本校で設定している「単元毎の到達目標」（CAN-DO リスト）を示し、それを達成するための学習計画を立てる場を設けました。また「単元毎の到達目標」は、単元の学習の実施中は常に掲示しておくことで子供と共有しました。単元末までに英語を使って何ができるようになっていけばよいのかを明確にすることができ、子供の学習意欲の継続につながりました。<資料2, 資料8-2参照>

キ 単元のまとめ期では、学習活動と「単元毎の到達目標」に即した学習の振り返り<資料3参照>を行う場を設けました。学んだことを近いもしくは遠い将来、どのように生かすことができそうか考える子供の姿が見られました。

手立て③ オリンピック・パラリンピックに関する動画を活用する。

ア 自分にとって魅力ある競技を見つけることができるよう、毎時間の冒頭に各競技のハイライト場面の資料動画を視聴する場を設け、どのスポーツを見たいと思ったかなど簡単なやり取りをする場を設けました。学習内容への関心を持続させ、ポスターで観戦をおすすめしたいという思いを強める姿が見られました。

ウ オリンピック・パラリンピックの歴史や参加している国、観たい競技や理由の表し方を知ることができるよう、WC2 デジタル教材に収録されている動画教材を使った学習活動を設けました。自分の見たい競技や理由を伝え合うために必要となる語句、表現等を確認することができました。



写真 研究大会本時の様子



写真 単元の授業実施期間中に教室に掲示した資料

研究大会実践の成果と課題

成果

本実践において、子供は興味・関心をもってオリンピック・パラリンピックで観戦をおすすめする競技とその理由、魅力について発表するまでの過程で、資料動画の視聴や友達とのやり取りを通して各競技の魅力と出会うことができました。また観戦をおすすめする競技についてのポスターを作るために、語句、表現、文の形の中から必要なものを選んで使うことができました。

子供が単元の初めから終わりまで主体的に学習に取り組むことができたのは、手立て①と手立て②が有効であったためと考えます。設定した単元の課題（ゴール）は、子供の興味・関心や学習経験に即していましたが、語句、表現、文の形を単元の中で繰り返し聞いたり、読んだり、話したり、書いたりしながらコミュニケーションを図る必然性が生まれました。そして観戦したい競技とその理由についてのやり取りを将来海外に行ったときにも行えそうだと考えたり、さらに他の人にも同様の質問をしてみようとしたりするなど、学びの生かし方を考える子供の姿につながりました。

子供が各競技の魅力に気付いたり、オリンピック・パラリンピックの歴史的な背景に関心を向けたりする姿も見られました。これは手立て③が有効でした。動画の視覚的効果はたいへん大きく、大会の臨場感や競技の迫力が自然と伝わります。スポーツが好きではない、苦手な子供も、オリンピック・パラリンピックのすばらしさや各競技の魅力に気付き、それを友達と交流したり発表に生かしたりすることができました。

課題

「単元毎の到達目標」（CAN-DO リスト）は、単元の学習を通して達成できるものでなければならず、「単元のデザイン」を左右するものです。「単元毎の到達目標」は今後も授業づくりと同様に子供の学習経験や前年度までの成果を参考に、修正を図りながら活用することが求められます。

「学びの文脈」や「単元毎の到達目標」は子供と教師が共有するものです。単元の学習を経て、子供が英語を使ってできることが増えていく感覚をもって自己評価を行うのはたいへん良いことです。そこに、より具体的な評価基準による客観的な評価が加わると、子供にとっても教師にとっても学習の成果や課題はより確かなものになりますし、「学びの文脈」もつながりやすくなると思います。とりわけ知識・技能に関して、現在行っている行動観察を中心とした方法以外の客観的な評価の方法については、外国語科が全面実施されるまでの間に確立しておきたいものです。

単元の目標を達成し、資質・能力を育成できるよう、子供の学習の成果や課題を的確に見取ることができる評価の在り方を引き続き研究していきます。

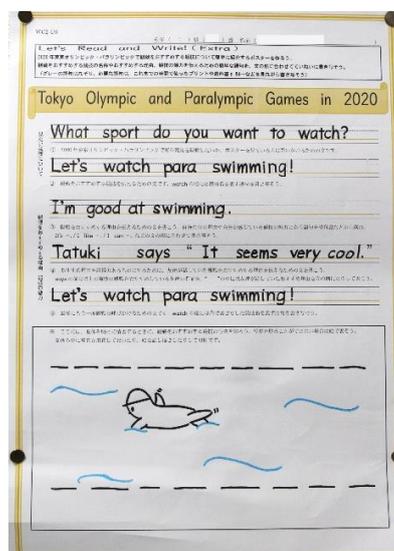


写真 児童が制作したポスター

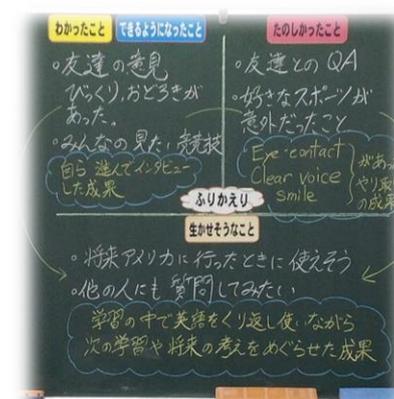


写真 児童の振り返り内容の板書

実践提案「ルーブリックを生かした授業」

5年「I want to go to Italy. 行ってみたい国を紹介しよう」 We Can! 1 Unit 6

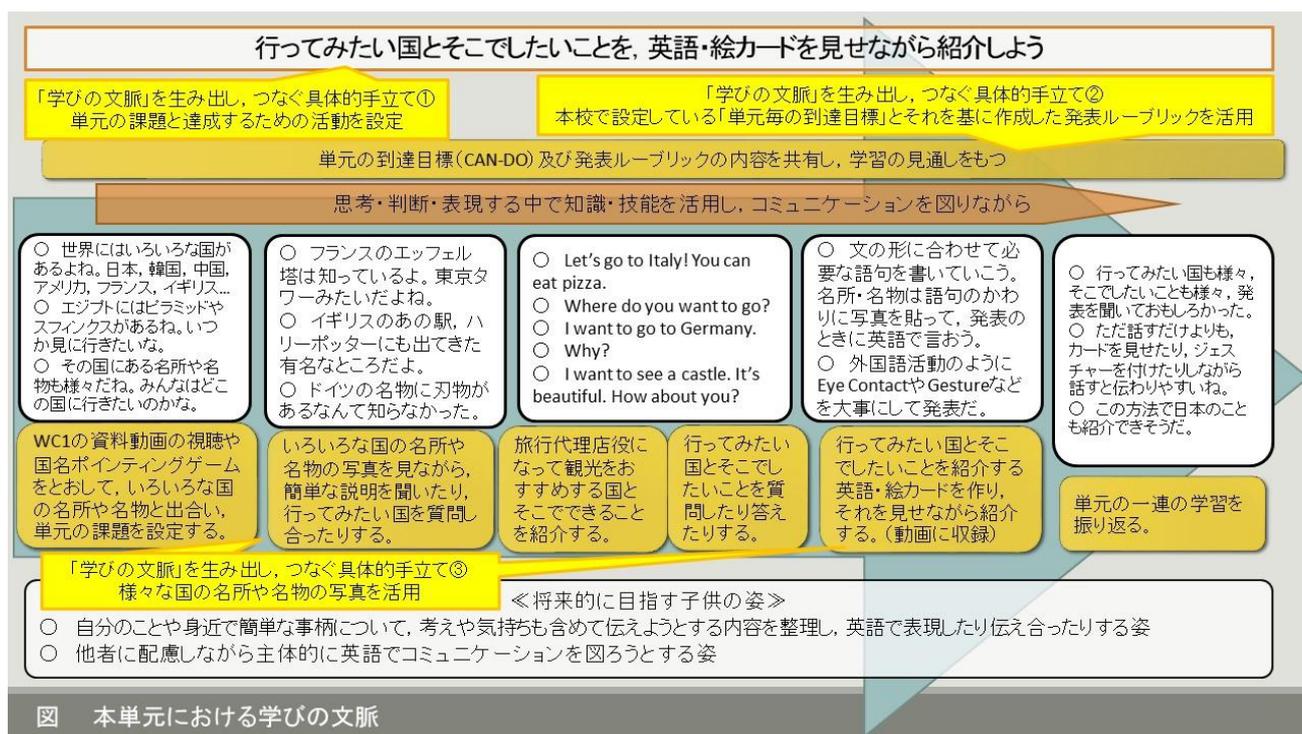
(1) 単元における、資質・能力の育成を支える「学びの文脈」

本単元では、子供が、

- ・ 行ってみたい国や地域の名前、名所や名物、したいこと（見る、食べる、買う等）やものの様子等を伝え合うための語句、表現を聞いたり話したり、読んだり、文の形に合わせて書き写したりする。
- ・ 行くことをおすすめする国や地域とそこでできることについて友達と交流しながら意見を比べたり、自分が行ってみたい国や地域とそこでしたいことを表す英語・絵カードを作成したり、カードを見せながら発表したりする。
- ・ 行ってみたい、行くことをおすすめする国や地域について、理由を簡単に添えるなど他者に配慮しながら主体的に伝え合おうとする。

ことができるよう、「学びの文脈」を次の通り構想しました。

ア WC1 デジタル教材の資料動画を視聴したり国名ポインティングゲームをしたりする。	開始期
イ 単元の課題を設定する。	
ウ 登場人物や教師の行ってみたい国とそこでしたいことに関するまとまりのある話を聞く。	展開期
エ 旅行代理店役になって観光に行くことをおすすめする国とそこでできることを紹介する。	
オ 自分が行ってみたい国とそこでしたいことを交流する。	
カ 行ってみたい国とそこでしたいことを表す英語・絵カードを作成し、それを見せながら発表する。	まとめ期
キ 単元の一連の学習を振り返る。	



(2) 「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立て

学びの文脈を生み、つなげることができるよう、下記のような3つの手立てを行いました。

手立て① 「いつか行ってみたい国とそこでしたいことについて、英語・絵カードを作り、それを見せながら発表する」という課題とそれを解決するための活動を設定する。

研究大会実践では、設定した単元の課題は、子供の興味・関心や学習経験に即しており、子供が必要とする語句、表現を単元の中で繰り返し使用しながら主体的にコミュニケーションを図るためのものでした。そこで本実践においても研究大会実践の成果を生かし、「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立て①を上のように設定しました。

ア・ウ 学習内容への関心をもつことができるよう、We Can! 1 Unit 6 デジタル教材に収録されている動画や、Web 上にある世界遺産に関する資料動画を視聴して各国の名所や名物の魅力を知る場や、誌面を使った国名ポインティングゲームをしながらいろいろな国名を表す英語の語句を押さえる場を設けました。各国の名所や名物については、子供もよく知っているもの（例えばアメリカ合衆国の自由の女神像や、フランスのエッフェル塔など）だけでなく、世界的に有名だが子供が知らなかったもの（例えばブラジルのイグアスの滝やドイツの名物であるはさみを中心とした刃物など）ともたくさん出合わせることができました。

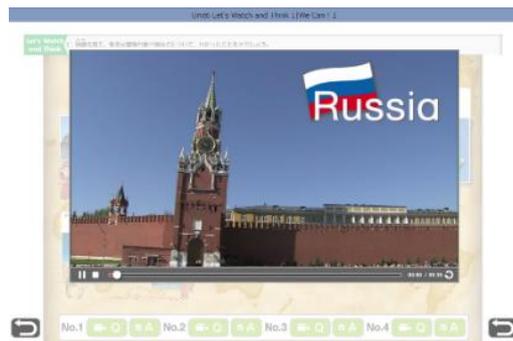


写真 WC1U6 W&T1 動画



写真 Web 上の資料動画

イ 明確なコミュニケーションの目的や場面、状況として「いつか行ってみたい国とそこでしたいことについて、英語・絵カードを作り、それを見せながら発表する」という本単元の課題（ゴール）を設定し、本単元における学習活動がすべてこれにつながるようにしました。単元のゴールに向かい、子供一人一人が単元の学習の中で自分に必要な語句、表現は確実に覚えようと繰り返し発音したり、名所や名物について自発的に詳しく調べたりしていました。

エ・オ・カ 旅行代理店役の立場でおすすめする国とそこでできることを簡単に紹介し合ったり、自分が行ってみたいと思う国とそこでしたいことについて簡単に友達や教師と交流したりする活動を設定しました。単元の学習をとおして子供は様々な国の名所や名物について知ろうとしたり、それらについて友達同士でおすすめを聞き合ったりしていました。

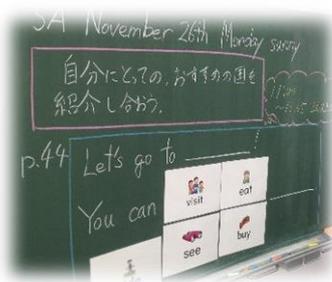


写真 2 枚 おすすめの国を伝え合う活動の様子

英語・絵カード<資料4参照>作成では、紹介に必要な文を丁寧になぞったり、国名やしたいこと（動作）を表す語句の中で必要なものを選んで慎重に書き写したりする姿が見られました。

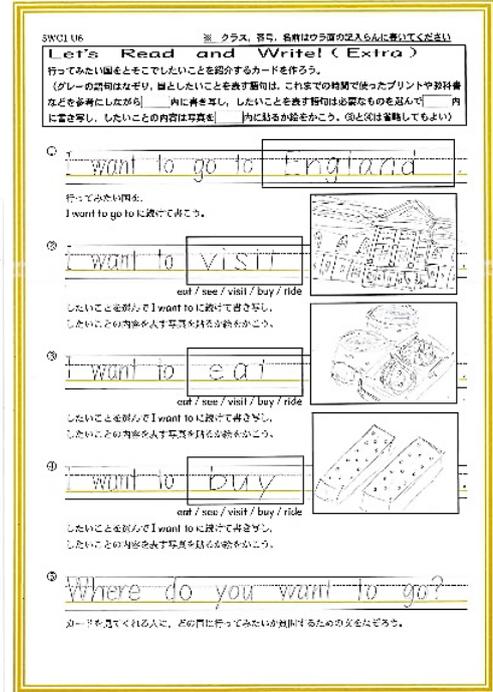
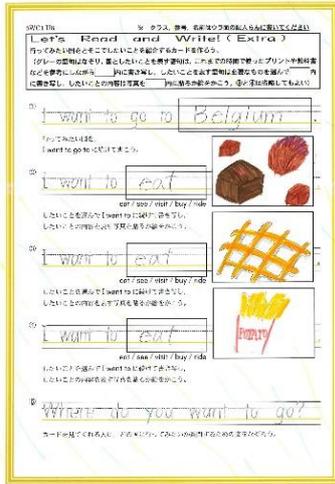


写真3枚 英語・絵カード

手立て② 本校で設定している「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト) とそれを基に作成した発表ルーブリックを活用する。

研究大会実践では、自分の学びの生かし方を考え、主体的にコミュニケーションを図ろうとする子供の姿が見られ、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」につながる情意面の自己評価において成果が見られました。一方で知識・技能面の客観的な評価の方法が課題となりました。この課題を解決することで、「学びの文脈」が一層つながりやすくなるものと考えました。そこで本実践では、「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト) を基に、本単元用の発表ルーブリックを作成し、それを単元の学習指導において活用することとしました。

イ 単元の開始期において本校で設定している「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト) を示し、We Can! 1 Unit 6 誌面を参照しながらそれを達成するための学習計画を立てる場を設けました。また「単元毎の到達目標」は、毎時間の冒頭に確認する場を設けることで子供と共有しました。単元終了までの間に英語を使って何をするに力を入れればよいのか明確にすることができました。<資料5, 資料8-1参照>

エ・カ さらに発表ルーブリック<資料6参照>に即した指導を取り入れました。子供は、外国語活動で大切にしてきた Eye Contact, Clear Voice, Gesture 等を意識することに加え、発表の流れに合わせてカードの内容を指で示すなどしながら話したり、自然な表情による円滑な発表になるよう何度も練習を繰り返したりしていました。カードを作る際には、必要になる語句を言ったり、書き写したりしながら覚えようとする子供の姿が見られました。

キ 単元のまとめ期では、学習活動と「単元毎の到達目標」に即した学習の振り返り<資料7参照>を行う場を設けました。「(覚えた語句、表現、文の形を) 将来海外旅行に行ったときに観光案内所などで使えそう」「カードを見せたりジェスチャーを付けたりすることで相手にわかりやすく伝えられる」などと振り返る子供の姿が見られました。

行きたい国に何かあるのか、どんなものがあるのか、 かがわかった。	気に入った国(行ってみたい国)について、 しょうかいてきて楽しかった。 らも、としょうかいてきる(?)
自分の行ってみたい国はどんなのか、 その国の有名な物は何かをしょうか カードで説明してきた。	カードを見せたりジェスチャーをつけることで 相手に分かりやすく伝えられる。
アメリカのよさを伝えられるように なった。わかりやすく伝えられたと 思う。	海外旅行かこに行きた時に観光案内 い所などにでつかえそう。

写真 振り返りカードの記述内容

手立て③ 世界遺産の資料動画や、様々な国の名所や名物の写真を豊富に用意し活用する。

研究大会実践では、オリンピック・パラリンピックの動画を視聴させたことで、子供が各競技の魅力に気づき、各々の言葉でそれを表すようになりました。そこで本実践においても、世界遺産に関する資料動画に加え、様々な国の名所や名物の写真を豊富に用意することにしました。

ウ WC1 デジタル教材に収録されている Let's Watch and Think を視聴する場を設け、それに加えて簡単に行う教師のプレゼンテーションを視聴する場も設けました。各国にある美しい光景や食べたことのないおいしそうな食べ物などに興味を示し、いろいろな国を旅行したがる子供の姿を見ることができました。

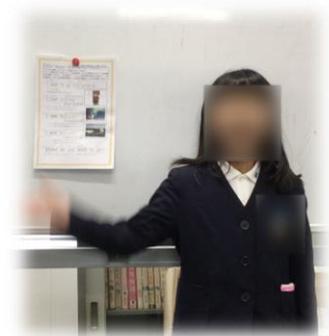


写真 発表の様子

カ 名所や名物、世界遺産の写真を豊富に用意し、教師のプレゼンテーション(前述)で使用したり、カード作りの材料として写真サイズをカードの様式に整えたものを提供したりしました。子供が興味をもち本当に行ってみたいと思える国とそこでしたいことを見つけたり、それを紹介するカードを作ったりすることができました。

今年度の研究を通して

成果

単元を構想する前段階として、年度初めに We Can! 1・2 と Let's Try! 1・2 のすべての単元について「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト)を作成しておきました。これにより単元の指導を行う際の特に身に付けさせたい技能と、そのために必要となる学習活動は概ね明確になっていました。したがって今年度の研究では、「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立ての検討に集中することができ、単元の課題(ゴール)を設定する際も具体的な子供の姿で検討することができました。さらに「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト)を基に、話すこと[発表]の指導や支援に関わって「発表ループリック」を作成し、単元の到達目標のうち、何をどの程度達成しているのかを客観的に見取ることができるよう明文化しました。これは、子供がさらに学習の成果をあげるためには、どの項目に関してどのような指導や支援を行えばよいのか、もしくはどのような子供の姿を称賛すればよいのかを明確化することにつながりました。

「主体的・対話的で深い学び」を保障する授業を具現化するにあたり、外国語科の指導のために学習到達目標を設定することにはたいへんな価値があると考えます。それは将来的に目指す子供の姿の設定や、知識・技能を習得し活用しながら思考・判断・表現し、主体的に学習に取り組む子供の姿の想定に欠かせないものとなるからです。

課題

本年度の実践の中で「単元毎の到達目標」(CAN-DO リスト)を基に「発表ループリック」を作成し、単元の指導において活用したことで、子供の資質・能力の育成に役立てることができました。しかし英語の技能は他にもあり、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、書くことに関しては「ループリック」を活用した実践を行っていませんでした。とりわけ「やり取りループリック」に関しては早期に実践することが求められると考えます。

新学習指導要領の外国語科(英語)の話すこと[やり取り]に関して見ると、「自分に関する簡単な質問に対しその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動」を設定する必要があることがわかります。子供には既習の知識・技能を活用して即興的に話す力が求められると同時に、教師にはどのような活動例を提示したらよいのか、どのような様子で活動をすればよいのか、どのようなやり取りがどの程度できていけばよいのか明確に打ち出すことが求められるのです。

過年度の実践等を参考にしながら、「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立てになり得るものを形にしたいと考えます。

実践を踏まえての展望

新学習指導要領の前文に、「これからの時代に求められる教育を実現していくためには～(中略)～それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようになるのかを教育課程において明確にしながら」という言葉があります。

今後も、子供が英語を使って、何を、どの程度、どのような様子でできるようになればよいかを、子供の姿を通して明らかにしつつ、その成果が反映される単元の課題(ゴール)を明確に設定し、豊富で多様な教材の中から効果的なものを見つけ出し、指導や支援に生かす実践を重ねていきます。

Let's Read and Write! (Extra)

2020年東京オリンピック・パラリンピックで観戦をおすすめする競技について簡単に紹介するポスターを作ろう。

観戦をおすすめする競技の名称やおすすめする理由, 競技の魅力を伝えるための簡単な語句を, 文の形に合わせていねいに書き写そう。

(グレーの語句はなぞり, 必要な語句は, これまでの時間で使ったプリントや教科書 p. 84~などを見ながら書き写そう)

Tokyo Olympic and Paralympic Games in 2020

見たい競技について

What sport do you want to watch?

① 2020年東京オリンピック・パラリンピックで何の競技を観戦したいか, ポスターを見ている人に問かけるための文です。

Let's watch !

② 観戦をおすすめする競技を伝えるための文です。watch の後には競技名を表す語句を書き写そう。

観戦をおすすめする理由, 競技の魅力

③ 観戦をおすすめする理由を伝えるための文を書こう。自分なりの理由や自分が感じている競技の魅力に合う語句を教科書などから選び, It's ~./I like ~./I can ~. などの文の形に合わせて書き写そう。

says “ ”

④ おすすめ理由を説得力あるものにするために, 友達が話していた観戦をおすすめする理由を伝えるための文を書こう。

says の前には上の競技の観戦をおすすめしている友達の名前を, “ ”の中には友達が話していたおすすめ理由を③の例にならって書こう。

Let's watch !

⑤ 最後にもう一度観戦を呼びかけるための文です。watch の後には②で書き写した競技名を表す語句を書き写そう。

※ ここには, 夏休み明けに清書するときに, 観戦をおすすめする競技の写真を貼ろう。写真を貼ることができない場合は絵で表そう。夏休み中に写真を用意しておいたり, 絵を試し描きしたりして OK です。

学年・単元	We Can! 2 Unit 6 の学習で英語の力を高めるために
聞く力	教科書の登場人物や友達が東京オリンピック・パラリンピックで観戦したい競技について話す場面で、様々な競技の名称や理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、要点や内容の大体をつかもう。
読む力	東京オリンピック・パラリンピックで観戦したい競技について交流するために、様々な競技の名称や理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って書かれた「観戦をおすすめする競技のポスター」を読んで、要点や内容の大体をつかもう。
話す力 1 (やり取り)	東京オリンピック・パラリンピックで観戦したい競技や人気の競技についてインタビューをする場面で、様々な競技の名称や理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりしよう。
話す力 2 (発表)	東京オリンピック・パラリンピックで観戦したい競技について発表をする場面で、「観戦をおすすめする競技のポスター」を見せながら様々な競技の名称や理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話そう。
書く力	東京オリンピック・パラリンピックで「観戦をおすすめする競技のポスター」を作るために、例を参考にしながら、様々な競技の名称や理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中から必要なものを選んで書き写そう。

6年()組()番 氏名()

Unit 6 の振り返り

(学習のゴール：2020年東京オリパラで観戦をおすすめする競技のポスターを作る)

(1) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

この学習には進んで参加できましたか。

			
1 いまいち	2 少しだけ	3 それなりに	4 自分から進んで

(2) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

様々な競技の名称や観戦したい理由を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、要点や内容の大体を理解できましたか。 【CAN-DO 聞くこと】

			
1 まったくできなかった	2 先生や友達に助けをもらいながらできた	3 要点を自力で理解できた	4 細部まで自力で理解できた

(3) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

様々な競技の名称や観戦したい理由を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりできましたか。 【CAN-DO 話すこと(やり取り)】

			
1 まったくできなかった	2 先生や友達に助けをもらいながらできた	3 授業で例示された語句や文の形を使って自力でできた	4 授業で例示された文の形に使ったことのある語句を当てはめながら自力でできた

(4) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

観戦をおすすめする競技のポスターを作るために、例を参考にしながら、様々な競技の名称や理由を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中から必要なものを選んで書き写すことができましたか。【CAN-DO 書くこと】

			
1 まったくできなかった	2 先生や友達に助けをもらいながらできた	3 例示の語句の中から伝えたい内容に合うものを選んでできた	4 伝えたい内容に合う語句を選び、文字の形やつづりまで注意しながらできた

(5) 学習を通して、楽しかったこと、わかったこと、英語を使ってできるようになったこと、これからできそうなこと、生かせそうなことなどを書きましょう。

Let's Read and Write! (Extra)

行ってみたい国をとそこでしたいことを紹介するカードを作ろう。

(グレーの語句はなぞり、国としたいことを表す語句は、これまでの時間で使ったプリントや教科書などを参考にしながら4線入りの□内書き写し、したいことを表す語句は必要なものを選んで4線入りの□内書き写し、したいことの内容は白い□内に写真を貼るか絵をかこう。)

①

I want to go to

行ってみたい国を、

I want to go to に続けて書こう。

②

I want to

eat / see / visit / buy / ride

したいことを選んでI want to に続けて書き写し、

したいことの内容を表す写真を貼るか絵をかこう。

③

I want to

eat / see / visit / buy / ride

したいことを選んでI want to に続けて書き写し、

したいことの内容を表す写真を貼るか絵をかこう。

④

I want to

eat / see / visit / buy / ride

したいことを選んでI want to に続けて書き写し、

したいことの内容を表す写真を貼るか絵をかこう。

⑤

Where do you want to go?

カードを見てくれる人に、どの国に行ってみたいか質問するための文をなぞろう。

学年・単元	We Can! 1 Unit 6 の学習で英語の力を高めるために
聞く力	登場人物による行きたい国や地域とその理由の紹介, おすすめの国や地域に関するクイズを視聴する場面で, 国・地域名や動作, ものの様子等を伝え合うための簡単な語句, 基本的な表現を用いた話を聞いて, 要点や内容の大体をつかもう。
読む力	「行ってみたい国とそこでしたいこと」を紹介する英語・絵カードを作るために必要となる, 国名や動作, ものの様子等を伝え合うための簡単な語句, 基本的な表現を声に出して読みながら意味をpushさよう。
話す力1 (やり取り)	行ってみたい国やおすすめの国について交流する場面で, 国名や場所, 動作, ものの様子等を伝え合うための簡単な語句, 基本的な表現を使って質問をしたり, 質問に答えたりしよう。
話す力2 (発表)	行ってみたい国とそこでしたいことや, おすすめの国や地域とそこでできることを紹介する場面で, 英語・絵カードや写真を見せながら, 国名や場所, 動作, ものの様子等を伝え合うための簡単な語句, 基本的な表現の中から必要なものを選んで話そう。
書く力	「行ってみたい国とそこでしたいこと」を紹介する英語・絵カードを作るために, 例を参考にしながら国名, 動作等を伝え合うための簡単な語句, 基本的な表現の中から必要なものを選んで書き写そう。

5年()組()番 児童氏名()

領域	到達目標	項目	評価規準	基準			評価
				A ◎	B ○	C △	
話すこと (発表)	行ってみたい国とそこでしたいことや、おすすめの良い国や地域とおすすめする理由を紹介する場面で、紹介カードやパンフレットを見せながら国・地域名や動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	知識 技能	つかえることなく発表することができたか。【流暢さ】	しっかりと流れを保って話せた	つかえることもあるが一応話せた	途中で止まってしまった	
			内容を通じるような文で話すことができたか。【正確さ】	内容を通じるような文で話せた	いくつか間違いは見られたが話せた	間違いが多く内容を通じる文で話せなかった	
		思考 判断 表現	行ってみたい / おすすめしたい国とその理由を、学んだ英語の語句、表現、文の形で整理することができたか。【考えの整理】	伝えたい内容を、学んだ語句、表現、文の形で整理できた	学んだ語句、表現、文の形を使ったが、伝えたい内容を整理しきれしていない	伝えたい内容を見出せず、学んだ語句、表現、文の形も使っていない	
		主体的に学習に取り組む態度	アイコンタクトをしながら自然な表情で話すことができたか。【積極性】	しっかりと相手を見て自然な表情で話せた	アイコンタクトは取れるが表情がぎこちない	アイコンタクトをうまく取ることができない	
			はっきりと聞こえる声と伝わる発音で話すことができたか。【話し方】	はっきり聞こえる声と伝わる発音で話せた	何とか聞こえる声と発音で話せた	声も発音も不明瞭だった	
			ジェスチャーなど非言語の手段で補ったり、思い出紹介カードを指さしながら話したり、言葉が詰まったときに既習の語句、表現で言い換えたりすることができたか。【方略】	ジェスチャーや指さしなどをふんだんに使ったり、必要に応じて言い換えたりできた	ジェスチャー、指さしなどを意識して少し使った	ジェスチャー、指さしなどをまったく使えなかった	

参考文献：

文部科学省 (H29.6.30) 「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」 p.180

樋口忠彦 他 (2017) 「Q&A 小学校英語指導法事典—教師の質問 112 に答える—」 教育出版 p.234

5年()組()番 氏名()

Unit 6 の振り返り

(学習のゴール：行ってみたい国とそこでしたいことを紹介する)

(1) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

この学習には進んで参加できましたか。

			
1 いまいち	2 少しだけ	3 それなりに	4 自分から進んで

(2) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

登場人物や友達、先生の話聞く場面で、それぞれの国で食べたいものや見たいもの等について伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、内容の大体を理解することができましたか。 【CAN-DO 聞くこと】

			
1 まったくできなかった	2 先生や友達に助けをもらいながらできた	3 要点を自力で理解できた	4 細部まで自力で理解できた

(3) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

インタビューしたり発表したりする場面で、行ってみたい国やそこでしたいことについて表すための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができましたか。 【CAN-DO 話すこと】

			
1 まったくできなかった	2 先生に手伝ってもらいながらできた	3 自分の考えを学んだ語句、文を使って話せた	4 自分の考えを学んだ語句、文を使って表し、ジェスチャーや写真の指さし等をしながらかせた

(4) 問いの答えとして当てはまるマークを一つ選んで○で囲みましょう。

行ってみたい国とそこでしたいことを紹介するカードを作るために、文の形をていねいになぞり、必要な語句を選んで書き写すことができましたか。 【CAN-DO 書くこと】

			
1 まったくできなかった	2 先生や友達に手伝ってもらいながらできた	3 自分の考えを表せる語句を選びながらできた	4 自分の考えを表せる語句を選び、文字の形やつづりまで注意しながらできた

(5) 学習を通して、楽しかったこと、わかったこと、英語を使ってできるようになったこと、これからは生かせそうなことなどを書きましょう。

単元	L 聞くこと	R 読むこと	Si 話すこと(やり取り)	Sp 話すこと(発表)	W 書くこと
WC1U1	登場人物や友達の情報を集める場面で、好きなものや欲しいもの、持っているものなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自己紹介カードを作るために必要となる、好きなものや欲しいものなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解したり、いろいろな人の名前の綴りを識別したりできる。	友達の情報を集めるインタビューの場面で、好きなものや欲しいものなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	自己紹介をする場面で、自己紹介カードを見せながら、好きなものや欲しいもの、持っているものなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自己紹介カードを作るために、自分の名前(姓・名または名・姓)を書いたり、好きなものや欲しいもの、持っているものなどを伝え合うための簡単な語句の中で必要なものを書き写すことができる。
WC1U2	世界の様々な祭り等の情報や友達の誕生日に関する情報を集める場面で、好きなものや欲しいもの、日本や世界の行事、月日や誕生日を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	誕生日カードの贈り合い等の場面で、誕生日カードに書かれている月日を表す語句を声に出して読んで意味を理解することができる。	誕生日カードの贈り合い等の場面で、好きなものや欲しいもの、誕生日などを伝え合うための簡単な語句や基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	なりきり自己紹介をし合う場面で、なりきっている有名人、歴史上の人物等の名前や誕生日、好きなことなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	誕生日カードを作るために、送る相手や送り主の名前を書いたり、誕生日を祝うための基本的な表現を書き写したりすることができる。
WC1U3	世界の学校や自分たちの時間割、将来の夢に向かう時間割を比べるために、教科や曜日、職業等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	将来の夢に向かう時間割表を作るために必要となる、教科や曜日、職業等を伝え合うための簡単な語句を声に出して読んで意味を理解することができる。	将来の夢に向かう時間割に関するクイズを行う場面で、簡単な語句、基本的な表現を使ってなりたい職業やそのために学習する教科を質問したり、質問に答えたりすることができる。	将来の夢に向かう時間割を紹介する場面で、時間割表を見せながら、教科や曜日、職業等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	将来の夢に向かう時間割表を作るために、教科や曜日、職業等を伝え合うための簡単な語句を書き写すことができる。
WC1U4	自分たちの日課を見直すために登場人物や友達、先生の日課を聞く場面で、一日の生活について伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自分や友達が家で果たす役割の一覧表を作るために必要となる、役割や頻度、曜日等を伝え合うための簡単な語句を声に出して読んで意味を理解したり指し示したりすることができる。	自分たちの日課を見直すために先生や友達に日課についてインタビューする場面で、一日の生活を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	自分で見直した日課の案を紹介する場面で、自分が家で果たす役割の一覧表を見せながら、一日の生活を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自分や友達が家で果たす役割の一覧表を作るために、役割や頻度、曜日等を伝え合うための簡単な語句の中で必要なものを書き写すことができる。
WC1U5	自分や第三者のできることやできないことに関するクイズ、インタビュー、発表の場面で、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、具体的な内容を理解することができる。	自分や、第三者のできることやできないことを紹介するために、スピーチメモやポスターに書かれている動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	先生や友達にできることやできないことについてのクイズやインタビューをする場面で、動作を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	自分や、第三者のできることやできないことを紹介する場面で、スピーチメモが書かれたポスターを見せながら動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自分や、第三者のできることやできないことの紹介で使うスピーチメモやポスターを作るために、動作等を伝え合うための簡単な語句の中で必要なものを書き写したり、例を参考にしながら基本的な表現を使って書いたりすることができる。
WC1U6	登場人物による行きたい国や地域とその理由の紹介、おすすめの国や地域に関するクイズを視聴する場面で、国・地域名や動作、ものの様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	行ってみたい国・地域紹介カードやおすすめの国・地域紹介パンフレット等を作ったりおすすめ国・地域ランキングの投票をしたりするために必要となる、国・地域名や動作、もの様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	行ってみたい国・地域やおすすめの国・地域について交流する場面で、場所や国・地域名、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	行ってみたい国とそこでしたいことや、おすすめ国や地域とおすすめ理由を紹介する場面で、紹介カードやパンフレットを見せながら国・地域名や動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	行ってみたい国・地域紹介カードやおすすめの国・地域紹介パンフレット等を作るために、例を参考にしながら国・地域名や動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書くことができる。
WC1U7	探しているものを見つけたり目的地に行ったりするために、位置関係や方向、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	宝探しをするために必要となる、位置関係や方向、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解したり、暗号となっている語句の初頭音(頭文字)でできる単語を推測して読みだしたりすることができる。	探しているものを見つけたり目的地に行ったりするために、位置関係や方向、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	宝(暗号)がある場所まで道案内をする場面で、位置関係や方向、動作等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って、簡単に案内をすることができる。	宝探しをするために、暗号となっている語句の初頭音(頭文字)を、暗号解読用カードに正しく書き写すことができる。
WC1U8	料理を注文する場面やスペシャルメニューを発表する場面で、様々な料理や食べてもらいたい家族の人、値段等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、具体的な内容を理解することができる。	自分が考えたスペシャルメニューに必要な料理を集めるために、メニュー表に書かれている様々な料理を表す語句を推測しながら声に出して読んで意味を理解することができる。	自分が考えたスペシャルメニューに必要な料理を集める場面で、店員になって欲しい料理を客に丁寧な表現で質問したり、客になって欲しい料理を店員に丁寧な表現で答えたりすることができる。	自分が考えたスペシャルメニューを紹介するために、様々な料理や食べてもらいたい家族の人、値段等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自分が考えたスペシャルメニューに必要な料理を集めるために、欲しい料理を表す簡単な語句を書き写すことができる。
WC1U9	登場人物や友達があこがれる第三者を紹介する場面で、できることや性格等その人に関する情報や意見を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、具体的な内容を理解することができる。	あこがれの人の紹介カードを作るために必要となる、できることや性格等その人に関する情報や自分の意見を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	先生や友達の尊敬できるところを見つけるために、できることや得意なことを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	自分のあこがれる第三者を紹介する場面で、あこがれの人の紹介カードを見せながら、できることや性格等その人に関する情報や自分の意見を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	あこがれの人の紹介カードを作るために、例を参考にしながらできることや性格等その人に関する情報や自分の意見を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書くことができる。

単元	L 聞くこと	R 読むこと	Si 話すこと(やり取り)	Sp 話すこと(発表)	W 書くこと
WC2U1	登場人物や友達が自己紹介をする場面で、好きなものや得意なこと、誕生日、ニックネームなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自己紹介カードを作るために必要となる、自分の名前、好きなものや得意なこと、誕生日、ニックネームなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	自己紹介の内容を考えるために、好きな動物、スポーツ、教科、食べ物等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたり、友達が話した内容を自分が話したりすることができる。	自己紹介をする場面で、自己紹介カードを見せながら、好きなものや得意なこと、誕生日、ニックネームなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自己紹介カードを作るために、例を参考にしながら自分の名前、好きなものや得意なこと、誕生日、ニックネームなどを伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書くことができる。
WC2U2	登場人物や友達が日本を紹介する場面で、行事や食べ物、季節、様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	日本を紹介するために必要となる、行事や食べ物、季節、様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	日本を紹介する内容を考えるために、好きな行事や食べ物、季節、様子等と好きな理由を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	日本を紹介する場面で、好きな日本文化について描いたポスターを見せながら、行事や食べ物、季節、様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	日本を紹介するガイドブックを作るために、例を参考にしながら行事や食べ物、季節、様子等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書くことができる。
WC2U3	登場人物や友達が自己紹介または第三者になりきった自己紹介やクイズをする場面で、好きなものや得意なこと、普段していること等を伝え合うための様々な簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	第三者になりきった自己紹介やクイズをするために必要となる、好きなものや得意なこと、普段していること等を伝え合うための様々な簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	第三者になりきった自己紹介やクイズでのヒントを求める場面等で、好きなものや得意なこと、普段していること等について伝え合うための様々な簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	第三者になりきった自己紹介やクイズをする場面で、好きなものや得意なこと、普段していること等を伝え合うための様々な簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	第三者になりきった自己紹介やクイズをする際のスピーチ原稿を作るために、例を参考にしながら好きなものや得意なこと、普段していること等を伝え合うための様々な簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書くことができる。
WC2U4	自分たちや自分たち以外の様々な町、地域の説明を聞く場面で、町や地域にある施設・建物やできること、よさ、欲しい建物・施設等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自分の町や地域を紹介するポスターを作るために必要となる、町や地域にある施設・建物やできること、よさ、欲しい建物・施設等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を声に出して読んで意味を理解することができる。	自分の町や地域を紹介する内容を考えるために、町や地域にあるお気に入りの施設・建物や欲しい建物・施設、その理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	自分の町や地域を紹介する場面で、町や地域にある施設・建物やできること、よさ、欲しい建物・施設等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	自分の町や地域を紹介するポスターを作るために、町や地域にある施設・建物やできること、よさ、欲しい建物・施設等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書き写したり、例を参考にしながら書いたりすることができる。
WC2U5	登場人物や友達が夏休みに行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想等を発表する場面で、過去にしたことや場所、食べ物、動作、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、具体的な内容を理解することができる。	夏休みの思い出絵日記を作るために、過去にしたことや場所、食べ物、動作、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の読み方を推測しながら読んで、友達が書いた文章を基にしたクイズに答えたりすることができる。	夏休みに行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想等を伝え合う場面で、過去にしたことや場所、食べ物、動作、状態、気持ち等に関する簡単な質問や勧誘への応答をすることができる。	夏休みに行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想等を伝え合う場面で、過去にしたことや場所、食べ物、動作、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	夏休みの思い出絵日記を作るために、過去にしたことや場所、食べ物、動作、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書き写したり、例を参考にしながら書いたりすることができる。
WC2U6	登場人物や友達が東京オリンピック・パラリンピックで見た競技について発表をする場面で、様々な競技やしたいこと、理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	東京オリンピック・パラリンピックの観戦計画の交流をするために、様々な競技やしたいこと、理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って友達が書いた観戦計画表を声に出して読んで意味を理解することができる。	東京オリンピック・パラリンピックで見た競技や人気の競技についてインタビューをする場面で、様々な競技やしたいこと、理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問したり、質問に答えたりすることができる。	東京オリンピック・パラリンピックで見た競技について発表をする場面で、観戦計画表を見せながら様々な競技やしたいこと、理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	東京オリンピック・パラリンピックの簡単なPRポスターや観戦計画表を作るために、例を参考にしながら様々な競技やしたいこと、理由等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを書き写したり、例を参考にしながら書いたりすることができる。
WC2U7	登場人物や友達が小学校生活の思い出を発表する場面で、学校行事や教科、動作、建物、季節、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	小学校生活の思い出アルバム(カード集)を作るために、学校行事や教科、動作、建物、季節、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の読み方を推測しながら読んで、友達が書いたスピーチ原稿を声に出して読んで意味を理解したりすることができる。	小学校生活の思い出を伝え合うために、好きな学校行事について質問したり質問に答えたり、相手が話したことに対する相づちや話した内容を確認するための繰り返しをしたりすることができる。	小学校生活の思い出を伝える場面で、思い出紹介カードを見せながら、学校行事や教科、動作、建物、季節、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	小学校生活の思い出アルバム(カード集)を作るために、例を参考にしながら学校行事や教科、動作、建物、季節、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを使って書くことができる。
WC2U8	登場人物や友達が将来の夢について話す場面で、職業や動作、好きなこと、得意なこと、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自分や友達の夢宣言スピーチの内容を交流するために、職業や動作、好きなこと、得意なこと、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の読み方を推測しながら読んで、友達が書いたスピーチ原稿を声に出して読んで意味を理解したりすることができる。	将来就きたい職業やしたいこと、その理由を話す場面で、職業や動作、好きなこと、得意なこと、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	将来の夢宣言スピーチをする場面で、職業や動作、好きなこと、得意なこと、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	将来の夢宣言スピーチの原稿を作るために、職業や動作、好きなこと、得意なこと、状態、気持ち等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを使って書くことができる。
WC2U9	登場人物や友達が中学校で入りたい部活動や楽しみたい学校行事等について話す場面で、様々な動作や身の回りのもの、スポーツ、教科、学校行事等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を用いた話を聞いて、概要を理解することができる。	自分や友達が中学校で入りたい部活動や楽しみたい学校行事等について交流するために、様々な動作や身の回りのもの、スポーツ、教科、学校行事等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の読み方を推測しながら読んで、友達が書いたスピーチ原稿を声に出して読んで意味を理解したりすることができる。	中学校で入りたい部活動や楽しみたい学校行事等について友達と交流するために、様々な動作や身の回りのもの、スポーツ、教科、学校行事等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。	中学校で入りたい部活動や楽しみたい学校行事等を発表する場面で、様々な動作や身の回りのもの、スポーツ、教科、学校行事等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現を使って話すことができる。	中学校で入りたい部活動や楽しみたい学校行事等についてのスピーチ原稿を作るために、例を参考にしながら様々な動作や身の回りのもの、スポーツ、教科、学校行事等を伝え合うための簡単な語句、基本的な表現の中で必要なものを使って書くことができる。